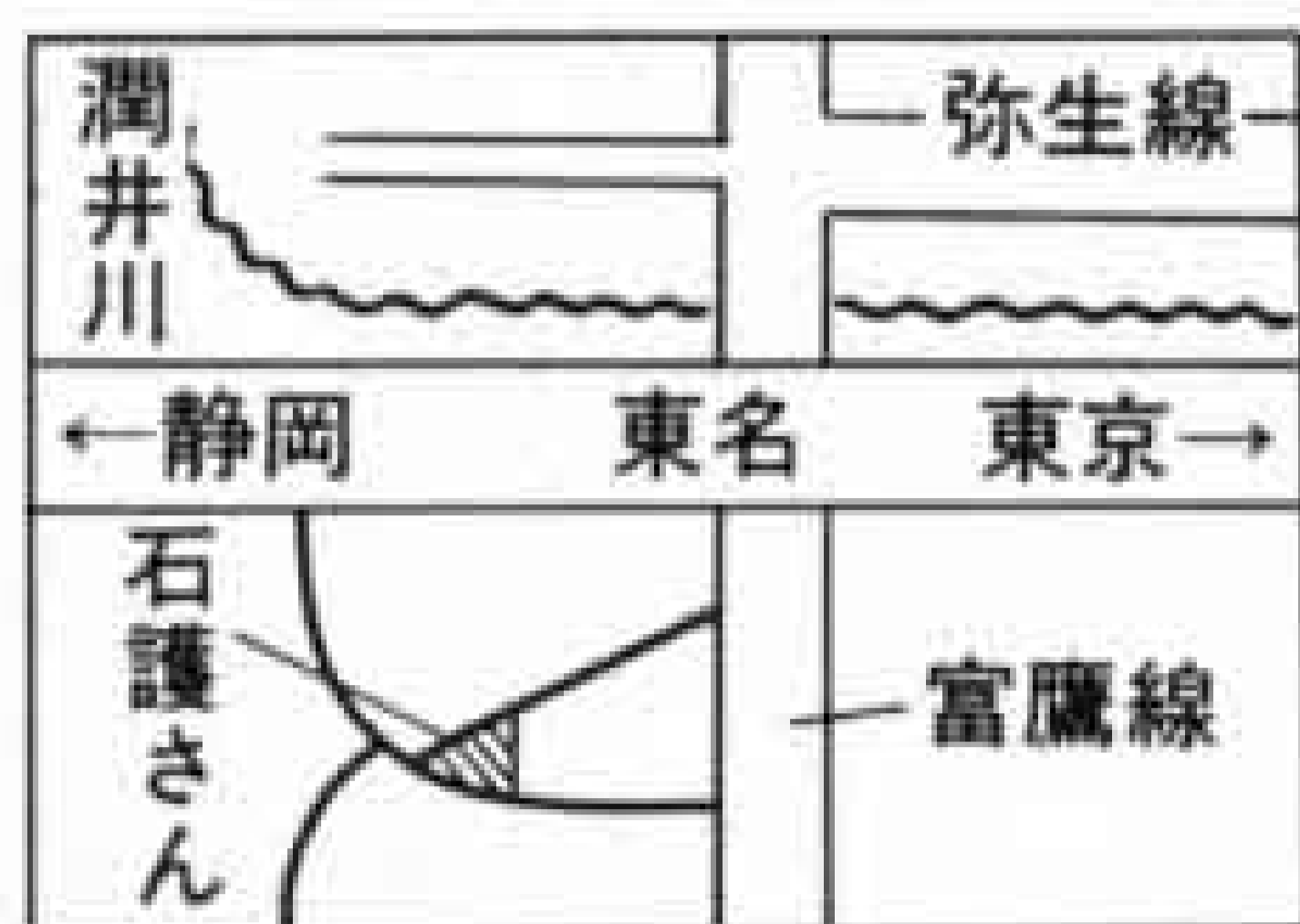


ふるさとの昔話

長通の石護さん

松本の長通に「石護さん」と呼ばれる石碑があります。今回は「石護さん」の話を、長通の時田哲さん（七十歳）と渡辺智さん（六十二歳）に伺いました。



▷石護さん



「じろじろ」がはやる

寛政十二年（一八〇〇年）春のことです。長通の一带に「じろじろ」と呼ばれた伝染病がはりました。

当時は現代のような医学もなく、人々はただ恐れをなしているだけで、病人のそばを手ぬぐいで口をふさいでは通っていました。

ですから、亡くなる人が相次ぎました。死亡者の野辺焼きは、今の富鷹線の潤井川橋の近くで行われ、川岸に植えられていた松林のこずえから幾つもの焼煙が立ち上りました。

旅の僧を葬る

そんなある日、長通を通りかかった旅の僧も疫病で行き倒れとなりました。お坊さんは「私を葬ってください。そうすれば疫病から人々を救います」と言ってお息を引き取りました。

長通、松本の有志は四辻の位置に石塚を立て、手厚く葬りました。

色紙の短冊を分ける

そして毎年八月十五日にはお経を上げ、男衆は石護さんを杉の葉で飾り、女衆はだんごなど供えてかがり火などをたき、にぎやかな供養を行いました。

現在では長通の行事となっており、石護さんを信仰すると疫病にかからないと言われ、伝えられています。

渡辺智さんは「お祭りは昔からずっと続いており、八月十五日に中島の安立寺の住職さんにお経を上げてもらっています。そして経文の書かれた色紙の短冊を長通の全戸に分けています。この短冊を供えると病気がかからないといわれ、農家では田んぼに置いて豊作を祈ったりもしていますよ」と語ってくれました。



▷時田さん（左）と渡辺さん

こなたここに



市民憲章



ポスターコンクールに二百十点の応募

▷中学生の部市長賞の若林千夏さん（鷹岡中二年）の作品

市民憲章推進協議会は、小・中学生を対象に「市民憲章ポスターコンクール」を行いました。市民憲章の精神となっている福祉や環境美化・健康・平和などを子供たちの自由な発想で表現してもらったもので、全部で210点の応募がありました。入賞者は下記のとおりで11月1日、市役所10階で表彰式が行われました。なお、市長賞の作品はポスターにして市内に掲示します。

〈入賞者〉

小学生の部			
市長賞	清和弘	丘小6年	
議長賞	仲田仁美	岩松北小5年	
教育長賞	高橋直子	元吉原小5年	
推進協議会長賞	後藤朋子	今泉小4年	
中学生の部			
市長賞	若林千夏	鷹岡中2年	
議長賞	鈴木麻希	元吉原中3年	
教育長賞	仁藤千文美	岳陽中3年	
推進協議会長賞	河野由美子	須津中2年	

地名の由来

富士川新田 (富士南地区)



△現在では富士川緑地になっています

富士川新田は文政五年（一八三三年）四月から蒲原宿、中ノ郷村、岩瀬村、岩本村、森島村、宮下村、松岡村、上五貫島村の人々が、江川代官の命令で富士川の河川敷を開発してできた村です。文政七年（一八二四年）七月の洪水で、蒲原宿の名主塩坂長兵衛の長男と下男二人が小屋もろとも流され、死亡した事件がありました。明治十二年に五貫島などと合併しました。

こちら編集室

あたし、むせんふじこ。あたしのこと、うるさいって言うひともいるの。なくてもいいって。寂しいけど、気持ちわかるわ。

あたし、今ちょっとお休み。感じよくなりたいたから、こんど、二つのグループにわかれてしゃべるの。しゃべると言え、アナウンスのひと、きどって年より若い声だしてんのよ。知ってた？